

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄復帰式典（式次第、含叙勲）(5)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43585

總理挨拶

注 五月十五日総理式辞終了後使用のこと

沖縄復帰記念式典における佐藤内閣総理大臣式辞

本日、天皇、皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、アグニュー。アメリカ合衆国副大統領をはじめ内外貴賓多数のご参列を得て、沖縄復帰記念式典を挙行いたしますことは、わたくしの深く喜びとするところであります。

沖縄は本日、祖国に復帰いたしました。わたくしは、まず、このことを、過ぐる大戦において尊い犠牲となられた幾百万のみ霊に、謹んでご報告いたしましたと思えます。大戦の末期に戦場となり、尊い多くの人命を失なつた沖縄の地は、戦後長きにわたつて米国の施政権下におかれてきたのでありますが、今日以降、わたくしたちは同胞相待つて喜びと悲しみを共に分かちあうことができるのであります。わたくしどもの感激はいうまでもありません。祖国愛に燃えて身命を捧げたひとびとを思い、現代に生きるわれわれとして、ここに、重ねて自由を守り平和に徹する誓いを新たにします。

わたくしはまた、二十七年の長年月にわたつて、大いなる苦悩にたえ、ひたすら祖国復帰の日を待ち望んでこられた沖縄同胞百万の心情に思いをいたすとき、まことに深甚な感慨を禁じ得ません。戦中、戦後における沖縄県民各位のご労苦は、何をもつてしてもつぐなうことはできませんが、今後本土との一体化を進めるなかで、沖縄の自然、伝統的文化の保存との調和をはかりつつ、総合開発の推進に努力し、豊かな沖縄県づくりの全力をあげる決意であります。

さらにわたくしは、国民各位とともに、沖縄の祖国復帰を慶賀するとともにその歴史的意義について深く考えてみたいと思えます。戦争によつて失なわれた領土を、平和のうちに外交交渉で回復したことは、史上きわめて稀なことであり、わたくしはこれを可能にした日米友好のきずなの強さを痛感するものがあります。今後日米両国は太平洋をはさむ先進国家としてともに世界の平和と発展に大きな責任を持つ立場におかれます。この日米関係の新時代は、これまで以上の信頼と理解による協調をもつて特徴づけられなければならないと信じ

ます。

わたくしはこの機会に、沖縄返還に当つて、米国政府ならびに米国民より示された友誼に感謝し、その大局に立つた英邁な決断に敬意を表するものであります。

国民の皆さん。われわれは尊い歴史の教訓を生かし、さらに平和への決意を新たにし、わが国のアジア。太平洋諸国に対する友好と協力のかけ橋として、平和で豊かな沖縄の建設に努めなければなりません。

歴史的記念の日を迎えるにあつて決意の一端を述べ、式辞といたします。

昭和四十七年五月十五日

内閣総理大臣 佐藤 栄 作